

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／資産複合	
信託期間	2014年11月28日から2024年11月14日までです。	
運用方針	インフラ関連好配当資産マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じて、主として、わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等および不動産投資信託証券（以下、「J-REIT」といいます。）に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。 マザーファンドにおける銘柄選択ならびに資産配分に関して、リソナアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けます。 円建て資産について、原則として円売り米ドル買いの外国為替予約取引等を行い、米ドルへの投資効果を享受することを目指します。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	インフラ関連好配当資産マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等およびJ-REITを主要投資対象とします。
投資制限	当ファンド	マザーファンドの受益証券への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	インフラ関連好配当資産マザーファンド	株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎月14日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

運用報告書（全体版）

インフラ関連好配当資産ファンド （毎月決算型）（米ドル投資型） （愛称 インフラ・ザ・ジャパン（米ドル投資型））

第61期（決算日 2019年12月16日） 第64期（決算日 2020年3月16日）
第62期（決算日 2020年1月14日） 第65期（決算日 2020年4月14日）
第63期（決算日 2020年2月14日） 第66期（決算日 2020年5月14日）

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様の「インフラ関連好配当資産ファンド（毎月決算型）（米ドル投資型）（愛称 インフラ・ザ・ジャパン（米ドル投資型）」は、2020年5月14日に第66期決算を迎えましたので、過去6ヵ月間（第61期～第66期）の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社営業部 セールスサポートグループへ
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214（営業日の9:00～17:00）

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

○最近30期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			合 成 (参考指数)	指 数		株 式 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分	込 配 金	期 騰 落 中 率		期 騰 落 中 率				
	円		円	%	ポイント		%	%	%	百万円
37期(2017年12月14日)	9,433		30	3.3	13,693.92		2.3	42.9	51.5	27,153
38期(2018年1月15日)	9,655		30	2.7	13,910.19		1.6	47.9	47.4	26,006
39期(2018年2月14日)	8,614		30	△10.5	12,627.08		△9.2	49.5	43.8	22,363
40期(2018年3月14日)	8,649		30	0.8	12,776.26		1.2	51.0	42.5	22,405
41期(2018年4月16日)	8,741		30	1.4	12,973.23		1.5	46.8	45.3	22,506
42期(2018年5月14日)	9,140		30	4.9	13,692.17		5.5	50.3	42.9	23,265
43期(2018年6月14日)	9,155		30	0.5	13,770.29		0.6	46.7	45.4	22,762
44期(2018年7月17日)	9,259		30	1.5	14,059.50		2.1	45.3	47.0	22,628
45期(2018年8月14日)	9,012		30	△2.3	13,606.00		△3.2	46.2	48.0	21,363
46期(2018年9月14日)	9,235		30	2.8	13,915.09		2.3	45.5	47.4	21,462
47期(2018年10月15日)	9,194		30	△0.1	13,723.68		△1.4	45.1	49.0	19,186
48期(2018年11月14日)	9,252		30	1.0	14,010.06		2.1	48.3	43.6	19,091
49期(2018年12月14日)	9,094		30	△1.4	13,910.41		△0.7	44.8	48.2	18,481
50期(2019年1月15日)	8,574		30	△5.4	13,003.66		△6.5	48.7	43.0	17,340
51期(2019年2月14日)	8,912		30	4.3	13,743.76		5.7	40.9	51.2	17,865
52期(2019年3月14日)	8,967		30	1.0	13,935.73		1.4	45.2	48.6	17,756
53期(2019年4月15日)	9,087		30	1.7	14,298.08		2.6	45.7	47.2	17,568
54期(2019年5月14日)	8,710		30	△3.8	13,653.58		△4.5	45.3	49.6	16,490
55期(2019年6月14日)	8,744		30	0.7	13,784.71		1.0	50.4	43.1	16,393
56期(2019年7月16日)	8,963		30	2.8	14,112.76		2.4	40.4	52.5	16,621
57期(2019年8月14日)	8,642		30	△3.2	13,701.52		△2.9	40.1	53.9	15,858
58期(2019年9月17日)	9,274		30	7.7	14,761.73		7.7	46.5	46.1	16,691
59期(2019年10月15日)	9,588		30	3.7	15,288.30		3.6	42.0	52.7	16,133
60期(2019年11月14日)	9,549		30	△0.1	15,304.13		0.1	48.7	47.1	14,164
61期(2019年12月16日)	9,678		30	1.7	15,618.94		2.1	48.0	46.4	13,401
62期(2020年1月14日)	9,825		30	1.8	15,883.97		1.7	46.1	46.6	13,079
63期(2020年2月14日)	9,916		30	1.2	16,047.24		1.0	50.0	42.7	12,669
64期(2020年3月16日)	6,949		30	△29.6	11,118.64		△30.7	51.3	41.5	8,709
65期(2020年4月14日)	7,641		30	10.4	12,296.73		10.6	51.1	41.6	9,554
66期(2020年5月14日)	7,724		30	1.5	12,432.38		1.1	45.4	47.5	9,652

(注) 基準価額および分配金（税引前）は1万口当たり、基準価額の騰落率は分配金（税引前）込み。

(注) 合成指数は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。合成指数は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）50%および東証REIT指数（配当込み）50%を合成した指数を米ドル換算したものです。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、株式組入比率および投資信託証券組入比率は実質比率を記載しております。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

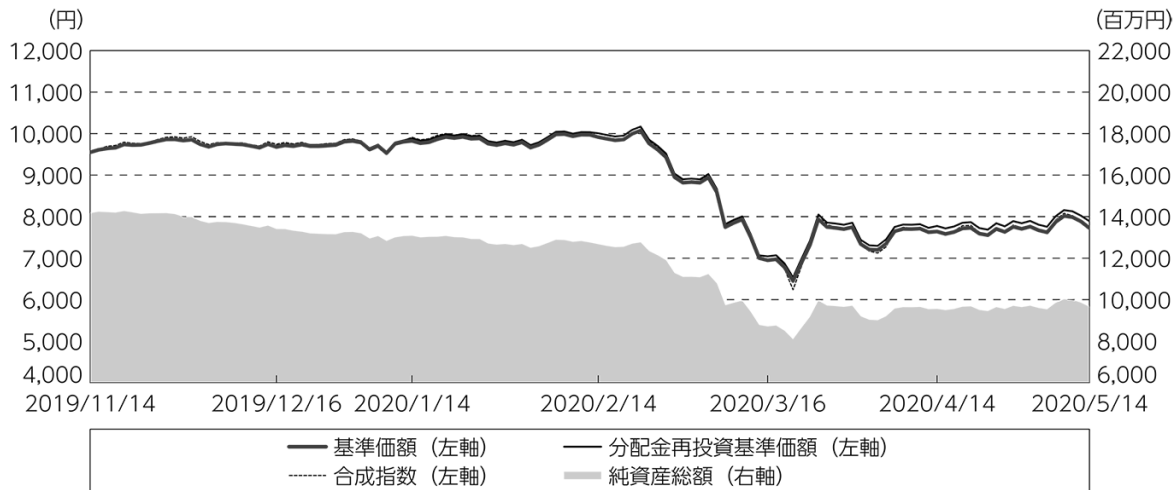
決 算 期	年 月 日	基 準 価 額		合 成 指 数		株 組 入 比 率	投 資 信 託 証 書 組 入 比 率
		騰 落 率	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
第61期	(期 首) 2019年11月14日	円 9,549	% —	ポイント 15,304.13	% —	% 48.7	% 47.1
	11月末	9,833	3.0	15,856.62	3.6	47.0	47.5
	(期 末) 2019年12月16日	9,708	1.7	15,618.94	2.1	48.0	46.4
第62期	(期 首) 2019年12月16日	9,678	—	15,618.94	—	48.0	46.4
	12月末	9,785	1.1	15,739.39	0.8	47.1	46.3
	(期 末) 2020年1月14日	9,855	1.8	15,883.97	1.7	46.1	46.6
第63期	(期 首) 2020年1月14日	9,825	—	15,883.97	—	46.1	46.6
	1月末	9,791	△ 0.3	15,776.62	△ 0.7	45.3	49.8
	(期 末) 2020年2月14日	9,946	1.2	16,047.24	1.0	50.0	42.7
第64期	(期 首) 2020年2月14日	9,916	—	16,047.24	—	50.0	42.7
	2月末	8,953	△ 9.7	14,349.56	△10.6	50.6	43.4
	(期 末) 2020年3月16日	6,979	△29.6	11,118.64	△30.7	51.3	41.5
第65期	(期 首) 2020年3月16日	6,949	—	11,118.64	—	51.3	41.5
	3月末	7,747	11.5	12,461.04	12.1	52.8	39.2
	(期 末) 2020年4月14日	7,671	10.4	12,296.73	10.6	51.1	41.6
第66期	(期 首) 2020年4月14日	7,641	—	12,296.73	—	51.1	41.6
	4月末	7,760	1.6	12,458.90	1.3	50.9	41.7
	(期 末) 2020年5月14日	7,754	1.5	12,432.38	1.1	45.4	47.5

(注) 期末基準価額は1万円当たり分配金（税引前）込み、騰落率は期首比。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2019年11月15日～2020年5月14日）



第61期首： 9,549円

第66期末： 7,724円（既払分配金（税引前）：180円）

騰落率：△ 17.4%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、合成指数です。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、作成期首（2019年11月14日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「インフラ関連好配当資産マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）」における基準価額の主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

（主なプラス要因）

（国内株式）

- ・日東紡績、ダイフク、コスモス薬品などへの投資。

（J－REIT）

- ・日本プロロジスリート投資法人、G L P 投資法人、三菱地所物流リート投資法人などへの投資。

（主なマイナス要因）

（国内株式）

- ・オリックス、三井住友フィナンシャルグループ、いすゞ自動車などへの投資。

（J－REIT）

- ・野村不動産マスターファンド投資法人、日本リテールファンド投資法人、オリックス不動産投資法人などへの投資。

なお、当ファンドは円売り米ドル買いの外国為替予約取引を行っているため、作成中に米ドルが対円で下落したことが基準価額の下落要因となりました。

投資環境

（2019年11月15日～2020年5月14日）

国内株式市場は、作成期初から2020年1月中旬までは、米中通商協議の早期妥結への期待が高まったことから堅調に推移しました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念から投資家のリスク回避姿勢が強まり、3月中旬にかけて国内株式市場は急落しました。その後は、各国政府による経済対策や中央銀行による金融緩和策などを背景に、持ち直す動きとなりました。

J－REIT市場は、長期金利の上昇や2020年の年初に公募増資が集中し需給が悪化したことなどから2020年1月上旬まで上値の重い動きとなりました。2月中旬にかけては、長期金利の低下などから上昇しましたが、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大への懸念や3月決算を控えた機関投資家による売りから3月中旬にかけて急落しました。急落直後は反動から上昇しましたが、その後は経済活動再開への期待が上昇要因となる一方で、新型コロナウイルスによる景気悪化懸念が上値を抑え、作成期末にかけてもみ合う動きとなりました。

米ドル/円相場は、2020年2月中旬まではもみ合う展開となりました。2月下旬以降は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けてリスク回避的な買いが進行したことに加え、米連邦準備制度理事会（FRB）が緊急利下げを行ったことなどを背景に、米ドル/円は一時101円台前半まで急落しました。しかしその後、金融市場の流動性が逼迫する中で、基軸通貨である米ドルへの需要が高まったことから、3月下旬にかけて値を戻す動きとなりました。4月以降は、トランプ大統領が企業活動再開の指針を示したことが好感された一方、原油価格の急落や企業業績の悪化が懸念され、米ドルは対円で緩やかに下落して作成期末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

（2019年11月15日～2020年5月14日）

円売り米ドル買いの外国為替予約取引の額が純資産総額比で高位となるように調整しました。

国内株式およびJ－REITの運用はマザーファンドを通じて行いました。マザーファンドの運用につきましては、銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社[※]の投資助言を受けました。

資産配分に関しては、2020年2月から4月までは株式への投資比率をJ－REIT比で概ね高めとしました。その他の期間は、株式とJ－REITの投資比率は概ね同等としました。

国内株式では、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に業績の先行き不透明感が高まるトラック株や鉄道株など

を売却する一方、次世代通信規格「5G」インフラの整備加速の恩恵が見込まれる電気機器株、巣ごもり消費の増加を背景に業績成長期待が高まる生活インフラ関連株などを組み入れました。

J-REITでは、相対的に高水準の配当金の確保を図りつつ、長期的な値上がり益の確保を目指して運用を行いました。複合投資型J-REITへの重点的な投資を継続したほか、物流投資型や住宅投資型J-REITへの投資比率を引き上げる一方、商業投資型やオフィス投資型J-REITなどへの投資比率を引き下げました。

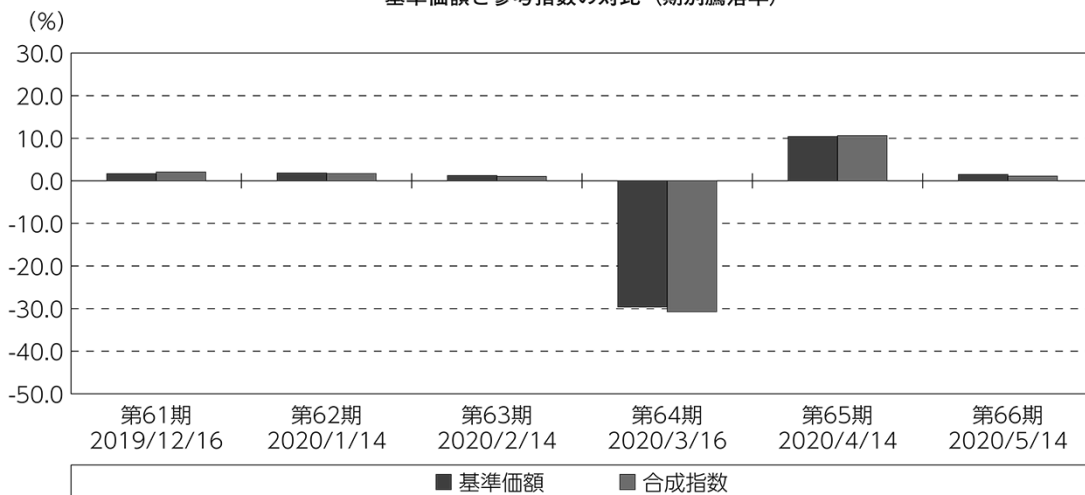
※投資助言会社は、2020年1月、株式会社りそな銀行からりそなアセットマネジメント株式会社へ変更しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2019年11月15日～2020年5月14日）

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、分配金も考慮した当ファンドの基準価額の騰落率は、参考指数（東証株価指数（TOPIX）（配当込み）50%および東証REIT指数（配当込み）50%を合成した指数を米ドル換算した指数）の騰落率を1.4%上回りました。詳細につきましては、前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注) 参考指数は、合成指数です。

分配金

（2019年11月15日～2020年5月14日）

当ファンドは、毎月14日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して分配金額を決定します。

当作成期中につきましては、第61期、第62期、第63期、第64期、第65期、第66期の決算時にそれぞれ1万口当たり30円（税引前）、合計180円（税引前）の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

（単位：円、1万口当たり・税引前）

項 目	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期	第66期
	2019年11月15日～ 2019年12月16日	2019年12月17日～ 2020年1月14日	2020年1月15日～ 2020年2月14日	2020年2月15日～ 2020年3月16日	2020年3月17日～ 2020年4月14日	2020年4月15日～ 2020年5月14日
当期分配金 (対基準価額比率)	30 0.309%	30 0.304%	30 0.302%	30 0.430%	30 0.391%	30 0.387%
当期の収益	9	17	13	13	30	13
当期の収益以外	20	12	16	16	—	16
翌期繰越分配対象額	308	296	279	263	309	292

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

国内株式市場は、新型コロナウイルスの感染拡大への警戒感から短期的に不安定な相場展開が想定されます。ただ、各国の景気刺激策などが支援材料になると期待されるほか、新型コロナウイルスが終息した場合の企業業績の循環的な回復への期待が株価の下支えになると考えられます。

J-REIT市場は、振れ幅がやや大きいものの、緩やかに上昇する展開を予想します。新型コロナウイルスの感染拡大の影響は不透明であるものの、欧米では経済活動が段階的に再開する動きがあり、投資家心理は改善に向かいやすいと考えます。また、バリュエーション面では、割安な投資口価格も支援材料になると思われれます。

引き続き銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けます。

為替に関しては、円売り米ドル買いの外国為替予約取引が純資産総額比で高位となるように調整していく方針です。

○ 1万口当たりの費用明細

（2019年11月15日～2020年5月14日）

項 目	第61期～第66期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	(a) 信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	71	0.793	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(34)	(0.383)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	(34)	(0.383)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
	(2)	(0.027)	
(b) 売 買 委 託 手 数 料	7	0.074	(b) 売買委託手数料＝作成期間中の売買委託手数料÷作成期間中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	(4)	(0.050)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(2)	(0.024)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c) その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(0)	(0.000)	その他は、金銭信託支払手数料
合 計	79	0.873	
作成期間中の平均基準価額は、8,978円です。			

(注) 作成期間中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

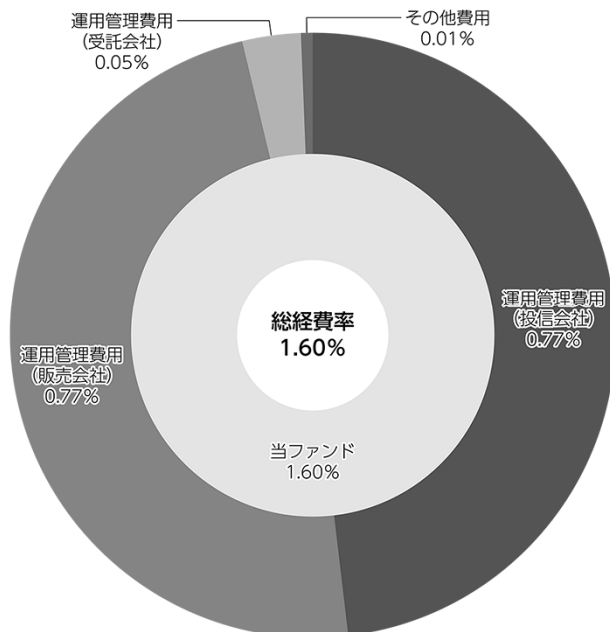
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

作成期間中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間中の平均受益権口数に作成期間中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.60%です。



（注）当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

（注）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

（注）各比率は、年率換算した値です。

（注）当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

（注）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

（2019年11月15日～2020年5月14日）

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	第61期～第66期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
インフラ関連好配当資産マザーファンド	千口 446,031	千円 450,000	千口 2,455,793	千円 3,190,000

（注）単位未満は切捨て。

○株式売買比率

（2019年11月15日～2020年5月14日）

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	第61期～第66期	
	インフラ関連好配当資産マザーファンド	
(a) 当作成期中の株式売買金額	11,845,785千円	
(b) 当作成期中の平均組入株式時価総額	10,029,752千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	1.18	

（注）(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

（2019年11月15日～2020年5月14日）

利害関係人との取引状況

<インフラ関連好配当資産ファンド（毎月決算型）（米ドル投資型）（愛称 インフラ・ザ・ジャパン（米ドル投資型））>

該当事項はございません。

<インフラ関連好配当資産マザーファンド>

区 分	第61期～第66期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 4,622	百万円 1,168	% 25.3	百万円 7,222	百万円 3,635	% 50.3
投資信託証券	2,119	264	12.5	3,536	1,259	35.6

平均保有割合 56.9%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	第61期～第66期
売買委託手数料総額 (A)	8,683千円
うち利害関係人への支払額 (B)	3,125千円
(B) / (A)	36.0%

(注) 売買委託手数料総額は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2020年5月14日現在)

親投資信託残高

銘 柄	第60期末	第66期末	
	口 数	口 数	評 価 額
インフラ関連好配当資産マザーファンド	千口 10,266,154	千口 8,256,392	千円 9,314,036

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2020年5月14日現在)

項 目	第66期末	
	評 価 額	比 率
インフラ関連好配当資産マザーファンド	千円 9,314,036	% 95.4
コール・ローン等、その他	447,533	4.6
投資信託財産総額	9,761,569	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第61期末	第62期末	第63期末	第64期末	第65期末	第66期末
	2019年12月16日現在	2020年1月14日現在	2020年2月14日現在	2020年3月16日現在	2020年4月14日現在	2020年5月14日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	26,421,739,754	25,748,595,444	25,027,363,769	17,067,561,191	18,889,270,890	19,119,471,698
コール・ローン等	539,500,939	598,119,247	651,212,825	229,411,870	568,737,886	446,627,227
インフラ関連好配当資産マザーファンド(評価額)	12,936,488,575	12,464,345,033	12,161,034,004	8,306,140,315	9,236,727,308	9,314,036,857
未収入金	12,945,750,240	12,686,131,164	12,215,116,940	8,532,009,006	9,083,805,696	9,358,807,614
(B) 負債	13,020,083,426	12,668,631,392	12,357,781,751	8,358,337,730	9,334,517,502	9,467,409,383
未払金	12,839,658,903	12,471,118,165	12,210,203,055	8,298,008,891	9,281,629,640	9,415,866,407
未払収益分配金	41,541,985	39,937,556	38,329,096	37,597,891	37,513,566	37,490,306
未払解約金	119,301,639	140,812,665	91,776,913	7,289,437	3,660,756	1,301,126
未払信託報酬	19,443,424	16,642,843	17,348,055	15,330,315	11,623,608	12,657,637
未払利息	793	623	263	384	259	341
その他未払費用	136,682	119,540	124,369	110,812	89,673	93,566
(C) 純資産総額(A-B)	13,401,656,328	13,079,964,052	12,669,582,018	8,709,223,461	9,554,753,388	9,652,062,315
元本	13,847,328,656	13,312,518,793	12,776,365,404	12,532,630,611	12,504,522,064	12,496,768,742
次期繰越損益金	△ 445,672,328	△ 232,554,741	△ 106,783,386	△ 3,823,407,150	△ 2,949,768,676	△ 2,844,706,427
(D) 受益権総口数	13,847,328,656口	13,312,518,793口	12,776,365,404口	12,532,630,611口	12,504,522,064口	12,496,768,742口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,678円	9,825円	9,916円	6,949円	7,641円	7,724円

(注) 純資産総額が元本総額を下回っており、その差額は第61期445,672,328円、第62期232,554,741円、第63期106,783,386円、第64期3,823,407,150円、第65期2,949,768,676円、第66期2,844,706,427円です。

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、第61期0.9678円、第62期0.9825円、第63期0.9916円、第64期0.6949円、第65期0.7641円、第66期0.7724円です。

(注) 当ファンドの第61期首元本額は14,833,770,019円、第61～66期中追加設定元本額は105,775,113円、第61～66期中一部解約元本額は2,442,776,390円です。

○損益の状況

項 目	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期	第66期
	2019年11月15日～ 2019年12月16日	2019年12月17日～ 2020年1月14日	2020年1月15日～ 2020年2月14日	2020年2月15日～ 2020年3月16日	2020年3月17日～ 2020年4月14日	2020年4月15日～ 2020年5月14日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	△ 15,265	△ 20,609	△ 6,963	△ 13,117	△ 6,484	△ 10,858
受取利息	—	—	456	74	1,041	124
支払利息	△ 15,265	△ 20,609	△ 7,419	△ 13,191	△ 7,525	△ 10,982
(B) 有価証券売買損益	239,531,008	252,610,439	172,215,985	△3,664,696,898	914,200,533	153,469,626
売買益	284,347,722	358,221,730	192,319,374	258,970,350	1,362,797,866	214,350,932
売買損	△ 44,816,714	△105,611,291	△ 20,103,389	△3,923,667,248	△ 448,597,333	△ 60,881,306
(C) 信託報酬等	△ 19,582,408	△ 16,759,784	△ 17,471,320	△ 15,443,102	△ 11,708,183	△ 12,748,700
(D) 当期繰越損益 (A+B+C)	219,933,335	235,830,046	154,737,702	△3,680,153,117	902,485,866	140,710,068
(E) 前期繰越損益	△715,365,591	△515,761,017	△306,709,460	△ 166,517,596	△3,849,303,264	△2,978,685,597
(F) 追加信託差損益金	91,301,913	87,313,786	83,517,468	60,861,454	34,562,288	30,759,408
(配当等相当額)	(409,585,959)	(393,800,352)	(377,962,820)	(350,805,592)	(329,446,753)	(329,444,578)
(売買損益相当額)	(△318,284,046)	(△306,486,566)	(△294,445,352)	(△ 289,944,138)	(△ 294,884,465)	(△ 298,685,170)
(G) 計 (D+E+F)	△404,130,343	△192,617,185	△ 68,454,290	△3,785,809,259	△2,912,255,110	△2,807,216,121
(H) 収益分配金	△ 41,541,985	△ 39,937,556	△ 38,329,096	△ 37,597,891	△ 37,513,566	△ 37,490,306
繰越繰越損益 (G+H)	△445,672,328	△232,554,741	△106,783,386	△3,823,407,150	△2,949,768,676	△2,844,706,427
追加信託差損益金	91,301,913	87,313,786	63,165,220	40,217,977	34,562,288	30,759,408
(配当等相当額)	(409,604,180)	(393,823,478)	(357,627,972)	(330,187,313)	(329,575,501)	(329,464,455)
(売買損益相当額)	(△318,302,267)	(△306,509,692)	(△294,462,752)	(△ 289,969,336)	(△ 295,013,213)	(△ 298,705,047)
分配準備積立金	17,717,691	359,485	—	—	57,737,747	36,461,087
繰越損益金	△554,691,932	△320,228,012	△169,948,606	△3,863,625,127	△3,042,068,711	△2,911,926,922

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金

決算期	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期	第66期
(a) 配当等収益(費用控除後)	13,312,190円	23,279,288円	17,632,152円	16,954,414円	95,251,313円	16,322,867円
(b) 有価証券等損益額(費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円	0円	0円	0円	0円	0円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	409,604,180円	393,823,478円	377,980,220円	350,830,790円	329,575,501円	329,464,455円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	45,947,486円	17,017,753円	344,696円	0円	0円	57,628,526円
分配対象収益(a+b+c+d)	468,863,856円	434,120,519円	395,957,068円	367,785,204円	424,826,814円	403,415,848円
分配対象収益(1万口当たり)	338円	326円	309円	293円	339円	322円
分配金額	41,541,985円	39,937,556円	38,329,096円	37,597,891円	37,513,566円	37,490,306円
分配金額(1万口当たり)	30円	30円	30円	30円	30円	30円

用語解説

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
資産	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
負債	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
純資産総額(資産－負債)	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額(翌期に繰り越す損益金の合計額)です。
受益権総口数	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

用語解説

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
配当等収益	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
有価証券売買損益	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
信託報酬等	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それに掛かる消費税等相当額です。
当期損益金	当期における収支合計です。
前期繰越損益金	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
追加信託差損益金	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
計	収益分配前の期中の収支の総合計です。
収益分配金	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
次期繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。

○分配金のお知らせ

	第61期	第62期	第63期	第64期	第65期	第66期
1 万口当たり分配金（税引前）	30円	30円	30円	30円	30円	30円
支払開始日	各決算日から起算して5営業日までの間に支払いを開始します。					
お支払場所	取得申込みを取扱った販売会社の本店					

〈お知らせ〉

投資助言会社は、2020年1月、株式会社りそな銀行からりそなアセットマネジメント株式会社へ変更しました。

インフラ関連好配当資産マザーファンド

マザーファンドの運用報告書につきましては、ベビーファンドの運用報告書と作成対象期間が異なる場合には、データ・コメント等に不一致が生じることがありますのでご了承ください。

インフラ関連好配当資産マザーファンド 第6期 運用状況のご報告 決算日：2020年5月14日

当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	主として、わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等および不動産投資信託証券（以下、「J-REIT」といいます。）に投資を行い、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等およびJ-REITを主要投資対象とします。
投資制限	株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		合成指数		株式組入比率	投資信託証券組入比率	純資産額
	期騰落	期中率	(参考指数)	期騰落			
	円	%	ポイント	%	%	%	百万円
2期(2016年5月16日)	10,257	△7.4	110.32	△4.1	43.4	54.3	59,811
3期(2017年5月15日)	10,853	5.8	119.44	8.3	48.7	47.7	50,450
4期(2018年5月14日)	12,175	12.2	131.28	9.9	52.4	44.7	35,857
5期(2019年5月14日)	11,964	△1.7	130.76	△0.4	46.5	50.9	26,560
6期(2020年5月14日)	11,281	△5.7	121.92	△6.8	47.1	49.3	16,459

(注) 基準価額は1万口当たり。

(注) 合成指数は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。合成指数は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）50%および東証REIT指数（配当込み）50%を合成したものです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

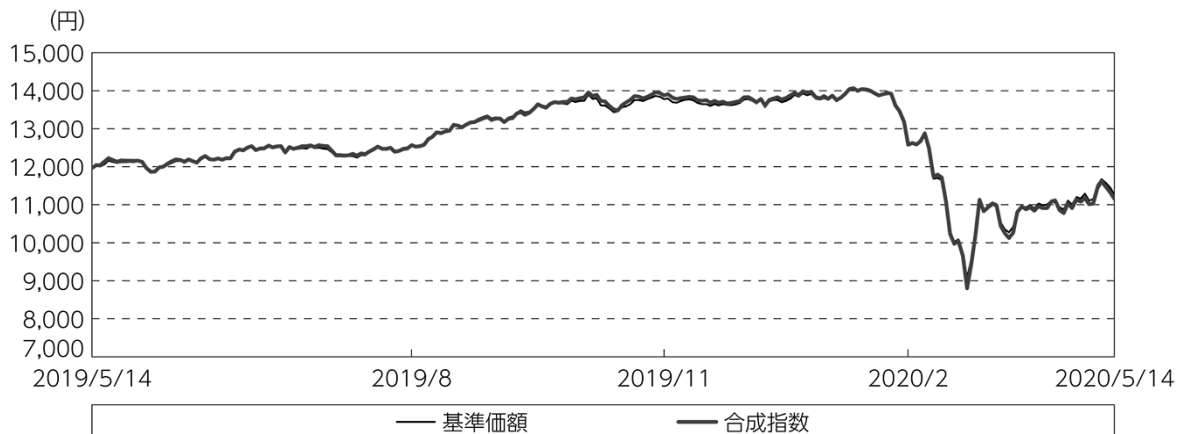
年 月 日	基 準 価 額		合 成 指 数		株 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率
	円	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期 首) 2019年5月14日	11,964	—	ポイント 130.76	% —	% 46.5	% 50.9
5月末	12,008	0.4	130.79	0.0	46.2	51.4
6月末	12,232	2.2	133.61	2.2	52.4	44.7
7月末	12,480	4.3	137.15	4.9	41.8	55.3
8月末	12,577	5.1	137.37	5.1	41.4	56.3
9月末	13,208	10.4	144.80	10.7	47.5	49.9
10月末	13,728	14.7	150.83	15.3	43.3	54.2
11月末	13,779	15.2	151.69	16.0	48.5	49.0
12月末	13,736	14.8	150.58	15.2	48.9	48.1
2020年1月末	13,844	15.7	151.63	16.0	46.6	51.2
2月末	12,624	5.5	137.46	5.1	52.0	44.6
3月末	11,015	△ 7.9	120.02	△ 8.2	55.0	40.8
4月末	11,287	△ 5.7	122.19	△ 6.6	53.0	43.4
(期 末) 2020年5月14日	11,281	△ 5.7	121.92	△ 6.8	47.1	49.3

(注) 騰落率は期首比。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2019年5月15日～2020年5月14日)



(注) 参考指数は、合成指数です。

(注) 参考指数は、期首(2019年5月14日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

(国内株式)

- ・ Zホールディングス、伊藤忠商事、ダイフクなどへの投資。

(J-R E I T)

- ・ 日本プロロジスリート投資法人、産業ファンド投資法人、G L P投資法人などへの投資。

(主なマイナス要因)

(国内株式)

- ・ 三井住友フィナンシャルグループ、いすゞ自動車、東京海上ホールディングスなどへの投資。

(J-R E I T)

- ・ 日本リテールファンド投資法人、ジャパン・ホテル・リート投資法人、ユナイテッド・アーバン投資法人などへの投資。

投資環境

(2019年5月15日～2020年5月14日)

国内株式市場は、米中貿易摩擦に対する先行き不透明感の強まりなどを背景に、期初から2019年8月下旬にかけて一進一退の展開となりました。その後は米中通商協議の早期妥結への期待が高まったことから2020年1月中旬まで堅調に推移しました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念から投資家のリスク回避姿勢が強まり、3月中旬にかけて国内株式市場は急落しました。その後は、各国政府による経済対策や中央銀行による金融緩和策などを背景に、持ち直す動きとなりました。

J-REIT市場は、2019年11月に米中通商協議進展への楽観などを背景に国内長期金利が上昇したことや、2020年の年初に公募増資が集中し需給が悪化したことなどを受けて一時的に軟調な推移となった局面もありましたが、オフィスビルや物流施設の良好な需給環境を背景に2月中旬までは堅調に推移しました。しかしその後は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大への懸念や3月決算を控えた機関投資家による売りから3月中旬にかけて急落しました。急落直後は反動から上昇しましたが、新型コロナウイルスによる景気悪化懸念が上値を抑え、期末まで下落幅を取り戻せませんでした。

当ファンドのポートフォリオ

(2019年5月15日～2020年5月14日)

銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社*の投資助言を受けました。

資産配分に関しては、2019年6月や2020年2月から4月までは株式への投資比率をJ-REIT比で概ね高めとする一方、2019年7月、8月、10月は株式への投資比率をJ-REIT比で低めとしました。その他の期間は、株式とJ-REITの投資比率は概ね同等としました。

国内株式では、通信キャリア株の選別投資を行いました。また、新型コロナウイルスの感染拡大を背景に業績の先行き不透明感が高まるトラック株や鉄道株などを売却する一方、次世代通信規格「5G」インフラの整備加速の恩恵が見込まれる電気機器株、巣ごもり消費の増加を背景に業績成長期待が高まる生活インフラ関連株などを組み入れました。

J-REITでは、相対的に高水準の配当金の確保を図りつつ、長期的な値上がり益の確保を目指して運用を行いました。複合投資型J-REITへの重点的な投資を継続したほか、物流投資型や住宅投資型J-REITなどへの投資比率を引き上げる一方、商業投資型やホテル投資型J-REITなどへの投資比率を引き下げました。

*投資助言会社は、2020年1月、株式会社りそな銀行からりそなアセットマネジメント株式会社へ変更しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年5月15日～2020年5月14日)

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、基準価額の騰落率は、参考指数(東証株価指数(TOPIX)(配当込み)50%および東証REIT指数(配当込み)50%を合成した指数)の騰落率を1.1%上回りました。詳細につきましては、前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

今後の運用方針

国内株式市場は、新型コロナウイルスの感染拡大への警戒感から短期的に不安定な相場展開が想定されます。ただ、各国の景気刺激策などが支援材料になると期待されるほか、新型コロナウイルスが終息した場合の企業業績の循環的な回復への期待が株価の下支えになると考えられます。

J-REIT市場は、振れ幅がやや大きいものの、緩やかに上昇する展開を予想します。新型コロナウイルスの感染拡大の影響は不透明であるものの、欧米では経済活動が段階的に再開する動きがあり、投資家心理は改善に向かいやすいと考えます。また、バリュエーション面では、割安な投資口価格も支援材料になると思われます。

引き続き銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けます。

○1万口当たりの費用明細

(2019年5月15日～2020年5月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (投 資 信 託 証 券)	円 21 (12) (8)	% 0.164 (0.097) (0.067)	(a)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、金銭信託支払手数料
合 計	21	0.164	
期中の平均基準価額は、12,709円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2019年5月15日～2020年5月14日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国	上場	千株	千円	千株	千円
内		4,866	11,002,847	7,341	15,069,757
		(89)	(-)		

(注) 金額は受渡金。

(注) 単位未満は切捨て。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

インフラ関連好配当資産マザーファンド

投資信託証券

銘柄	柄	買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
		口	千円	口	千円
	エスコンジャパンリート投資法人 投資証券	323	42,521	40	5,127
	サンケイリアルエステート投資法人 投資証券	119	10,977	339	43,985
	S O S i L A 物流リート投資法人 投資証券	941	113,125	208	24,864
	日本アコモデーションファンド投資法人 投資証券	180	112,051	379	247,528
	MCUBS M i d C i t y 投資法人 投資証券	1,203	120,505	3,583	404,569
	産業ファンド投資法人 投資証券	1,530	211,044	2,079	336,027
	アドバンス・レジデンス投資法人 投資証券	593	185,666	814	273,003
	ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人 投資証券	859	159,409	1,099	215,038
	アクティビア・プロパティーズ投資法人 投資証券	808	373,858	546	292,680
	G L P 投資法人 投資証券	1,192	151,668	3,032	408,393
	コンフォリア・レジデンシャル投資法人 投資証券	308	95,970	482	158,776
	日本プロロジスリート投資法人 投資証券	947	251,983	1,681	469,396
	星野リゾート・リート投資法人 投資証券	103	57,553	663	365,155
	O n e リート投資法人 投資証券	238	69,199	222	76,071
国	イオンリート投資法人 投資証券	754	97,379	1,347	190,345
	ヒューリックリート投資法人 投資証券	144	27,203	576	108,857
	日本リート投資法人 投資証券	205	82,124	792	348,298
	インバスコ・オフィス・ジェイリート投資法人 投資証券	5,884	92,509	9,955	200,541
	積水ハウス・リート投資法人 投資証券	1,545	113,480	2,482	221,902
	トーセイ・リート投資法人 投資証券	422	46,324	773	97,805
	ケネディクス商業リート投資法人 投資証券	300	74,152	746	197,602
	ヘルスケア&メディカル投資法人 投資証券	185	23,641	756	96,877
	サムティ・レジデンシャル投資法人 投資証券	139	17,203	536	57,224
	野村不動産マスターファンド投資法人 投資証券	3,258	512,105	2,540	480,413
	ラサールロジポート投資法人 投資証券	747	105,984	1,448	218,621
	スターアジア不動産投資法人 投資証券	—	—	418	48,617
	三井不動産ロジスティクスパーク投資法人 投資証券	278	114,589	291	132,439
	投資法人みらい 投資証券	2,047	106,971	3,317	166,322
	三菱地所物流リート投資法人 投資証券	309	102,422	247	89,992
	CREロジスティクスファンド投資法人 投資証券	275	36,586	242	34,122
	ザイマックス・リート投資法人 投資証券	—	—	125	16,666
内	タカラレーベン不動産投資法人 投資証券	1,057	118,889	292	36,104
	伊藤忠アドバンス・ロジスティクス投資法人 投資証券	443	44,033	—	—
	日本リートリアルファンド投資法人 投資証券	850	208,831	3,241	644,796
	オリックス不動産投資法人 投資証券	1,622	322,625	1,609	357,698
	日本プライムリアルティ投資法人 投資証券	643	223,270	501	245,250
	プレミアム投資法人 投資証券	772	98,936	2,162	313,351
	東急リアル・エステート投資法人 投資証券	1,555	276,025	653	133,081
	グローバル・ワン不動産投資法人 投資証券	498	62,966	1,018	141,518
	ユナイテッド・アーバン投資法人 投資証券	1,439	249,784	576	112,475
	森トラスト総合リート投資法人 投資証券	613	101,926	1,486	269,333
	インヴィンシブル投資法人 投資証券	2,828	146,484	7,377	464,782
	フロンティア不動産投資法人 投資証券	168	78,023	632	257,272
	平和不動産リート投資法人 投資証券	179	17,050	573	80,220
	ケネディクス・オフィス投資法人 投資証券	151	109,892	421	344,491
	いちごオフィスリート投資法人 投資証券	724	65,424	4,668	481,604
	スターツプロシード投資法人 投資証券	482	89,249	1,373	271,028
	大和ハウスリート投資法人 投資証券	871	232,656	1,596	452,069

インフラ関連好配当資産マザーファンド

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	ジャパン・ホテル・リート投資法人 投資証券	2,155	138,495	4,020	344,771
	大和証券リビング投資法人 投資証券	1,319	116,795	1,504	147,794
	ジャパンエクセレント投資法人 投資証券	676	93,161	1,043	181,031
	タカラレーベン・インフラ投資法人 投資証券	—	—	250	29,514
	いちごグリーンインフラ投資法人 投資証券	—	—	160	10,357
	カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人 投資証券	—	—	180	21,847
合計		44,881	6,302,737	77,093	11,367,664

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨て。

○株式売買比率

(2019年5月15日～2020年5月14日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
(a) 期中の株式売買金額	26,072,605千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	10,943,408千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	2.38

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2019年5月15日～2020年5月14日)

利害関係人との取引状況

区分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 11,002	百万円 4,917	% 44.7	百万円 15,069	百万円 3,882	% 25.8
投資信託証券	6,302	2,894	45.9	11,367	3,712	32.7

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項目	当期
売買委託手数料総額 (A)	37,653千円
うち利害関係人への支払額 (B)	13,196千円
(B) / (A)	35.0%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2020年5月14日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
建設業 (5.7%)			
ショーボンドホールディングス	17.3	36.1	165,157
前田建設工業	170	—	—
東鉄工業	61.2	43.5	118,537
五洋建設	521.5	287.4	158,357
大和ハウス工業	82.6	—	—
化学 (2.0%)			
富士フイルムホールディングス	—	30.8	154,492
石油・石炭製品 (—%)			
出光興産	144.4	—	—
ゴム製品 (1.2%)			
TOYO TIRE	—	69.6	95,004
ブリヂストン	61.9	—	—
ガラス・土石製品 (2.0%)			
日東紡績	—	30.6	157,590
機械 (7.3%)			
ナブテスコ	42.4	—	—
SMC	—	4	204,720
小松製作所	184.3	—	—
ダイキン工業	—	14.1	198,598
ダイフク	—	21	162,120
電気機器 (18.2%)			
三菱電機	89.1	—	—
安川電機	—	44.3	152,835
富士通	—	18.8	196,742
TDK	—	16.9	157,677
横河電機	120.4	—	—
キーエンス	—	8.2	317,914
京セラ	47.8	—	—
村田製作所	88.3	46	280,968
東京エレクトロン	—	13.8	304,635
輸送用機器 (2.9%)			
豊田自動織機	42.8	43.7	225,055
いすゞ自動車	372	—	—
電気・ガス業 (2.1%)			
中部電力	—	111.1	159,984
陸運業 (15.1%)			
東急	220.6	97.3	153,247
京成電鉄	99.2	—	—

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
西日本旅客鉄道	48.6	23.7	152,580	
ヤマトホールディングス	70.4	125.6	236,756	
セゾングループホールディングス	586.9	360.9	304,238	
セイノーホールディングス	257.2	245.4	324,173	
情報・通信業 (12.9%)				
Zホールディングス	—	471.6	207,032	
トレンドマイクロ	86.9	—	—	
日本電信電話	85	129.4	306,872	
KDDI	—	89	280,172	
NTTドコモ	54.7	—	—	
エス・ティ・ティ・データ	254.7	178.8	203,474	
富士ソフト	60.1	—	—	
ソフトバンクグループ	12.4	—	—	
卸売業 (12.1%)				
シップヘルスケアホールディングス	—	32.4	152,604	
伊藤忠商事	434.2	245.4	543,315	
三井物産	—	156.6	239,676	
三菱商事	173.3	—	—	
小売業 (4.6%)				
コスモス薬品	—	12.4	354,020	
銀行業 (3.4%)				
三井住友フィナンシャルグループ	162	97.3	263,780	
証券・商品先物取引業 (2.1%)				
SBIホールディングス	271.2	77.8	166,647	
保険業 (3.9%)				
東京海上ホールディングス	—	69.9	305,742	
その他金融業 (2.5%)				
オリックス	578	153.3	190,858	
不動産業 (2.0%)				
東急不動産ホールディングス	205.6	295.5	152,478	
三井不動産	96.1	—	—	
サービス業 (—%)				
日本郵政	284	—	—	
合 計	株数・金額	6,087	3,702	7,748,057
	銘柄数<比率>	35	35	<47.1%>

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

国内投資信託証券

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
	口	口	千円	%
エスコンジャパンリート投資法人 投資証券	234	517	50,924	0.3
サンケイリアルエステート投資法人 投資証券	874	654	65,792	0.4
S O S i L A 物流リート投資法人 投資証券	—	733	92,651	0.6
日本アコモデーションファンド投資法人 投資証券	565	366	223,260	1.4
MCUBS M i d C i t y 投資法人 投資証券	4,070	1,690	128,778	0.8
産業ファンド投資法人 投資証券	2,111	1,562	246,483	1.5
アドバンス・レジデンス投資法人 投資証券	1,174	953	311,631	1.9
ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人 投資証券	1,306	1,066	175,996	1.1
アクティブ・プロパティーズ投資法人 投資証券	469	731	255,850	1.6
GLP 投資法人 投資証券	4,733	2,893	402,416	2.4
コンフォリア・レジデンシャル投資法人 投資証券	728	554	170,078	1.0
日本プロロジスリート投資法人 投資証券	2,355	1,621	495,215	3.0
星野リゾート・リート投資法人 投資証券	560	—	—	—
O n e リート投資法人 投資証券	461	477	116,865	0.7
イオンリート投資法人 投資証券	2,139	1,546	173,306	1.1
ヒューリックリート投資法人 投資証券	951	519	62,954	0.4
日本リート投資法人 投資証券	877	290	96,135	0.6
インベスコ・オフィス・ジェイリート投資法人 投資証券	15,648	11,577	163,930	1.0
積水ハウス・リート投資法人 投資証券	4,354	3,417	220,396	1.3
トーセイ・リート投資法人 投資証券	1,393	1,042	102,324	0.6
ケネディクス商業リート投資法人 投資証券	817	371	69,488	0.4
ヘルスケア&メディカル投資法人 投資証券	1,391	820	97,006	0.6
サムティ・レジデンシャル投資法人 投資証券	1,152	755	73,235	0.4
野村不動産マスターファンド投資法人 投資証券	2,770	3,488	415,072	2.5
ラサールロジポート投資法人 投資証券	2,122	1,421	219,260	1.3
スターアジア不動産投資法人 投資証券	1,118	700	59,080	0.4
三井不動産ロジスティクスパーク投資法人 投資証券	450	437	194,028	1.2
投資法人みらい 投資証券	3,468	2,198	82,315	0.5
三菱地所物流リート投資法人 投資証券	246	308	113,960	0.7
CREロジスティクスファンド投資法人 投資証券	512	545	81,368	0.5
ザイマックス・リート投資法人 投資証券	274	149	13,722	0.1
タカラレーベン不動産投資法人 投資証券	—	765	63,112	0.4
伊藤忠アドバンス・ロジスティクス投資法人 投資証券	—	443	56,571	0.3
日本リテールファンド投資法人 投資証券	3,368	977	133,262	0.8
オリックス不動産投資法人 投資証券	2,095	2,108	275,515	1.7
日本プライムリアルティ投資法人 投資証券	629	771	231,068	1.4
プレミアム投資法人 投資証券	2,660	1,270	137,795	0.8
東急リアル・エステート投資法人 投資証券	—	902	123,393	0.7
グローバル・ワン不動産投資法人 投資証券	1,455	935	84,056	0.5
ユナイテッド・アーバン投資法人 投資証券	1,160	2,023	234,263	1.4
森トラスト総合リート投資法人 投資証券	1,898	1,025	124,640	0.8
インヴィンシブル投資法人 投資証券	7,585	3,036	68,886	0.4
フロンティア不動産投資法人 投資証券	638	174	56,724	0.3
平和不動産リート投資法人 投資証券	1,324	930	91,047	0.6
ケネディクス・オフィス投資法人 投資証券	486	216	121,176	0.7

インフラ関連好配当資産マザーファンド

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末		
		口 数	口 数	評 価 額	比 率
		口	口	千円	%
いちごオフィスリート投資法人	投資証券	5,211	1,267	86,282	0.5
スターツプロシード投資法人	投資証券	1,692	801	149,626	0.9
大和ハウスリート投資法人	投資証券	2,499	1,774	440,661	2.7
ジャパン・ホテル・リート投資法人	投資証券	5,447	3,582	130,922	0.8
大和証券リビング投資法人	投資証券	2,154	1,969	179,179	1.1
ジャパンエクセレント投資法人	投資証券	1,627	1,260	146,538	0.9
タカラレーベン・インフラ投資法人	投資証券	660	410	47,642	0.3
いちごグリーンインフラ投資法人	投資証券	900	740	44,696	0.3
カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人	投資証券	1,116	936	107,452	0.7
合 計	口 数 ・ 金 額	103,926	71,714	8,108,039	
	銘 柄 数 < 比 率 >	50	53	< 49.3% >	

(注) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2020年5月14日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	7,748,057	47.1
投資証券	8,108,039	49.3
コール・ローン等、その他	603,072	3.6
投資信託財産総額	16,459,168	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

インフラ関連好配当資産マザーファンド

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年5月14日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	16,459,168,306
コール・ローン等	357,293,082
株式(評価額)	7,748,057,700
投資証券(評価額)	8,108,039,760
未収配当金	245,777,764
(B) 負債	5,736
未払利息	273
その他未払費用	5,463
(C) 純資産総額(A-B)	16,459,162,570
元本	14,590,260,232
次期繰越損益金	1,868,902,338
(D) 受益権総口数	14,590,260,232口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,281円

- (注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、1,1281円です。
- (注) 当ファンドの期首元本額は22,200,846,554円、期中追加設定元本額は973,394,484円、期中一部解約元本額は8,583,980,806円です。
- (注) 当親ファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額は、以下の通りです。
- インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(米ドル投資型)
8,256,392,924円
- インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(円投資型)
3,462,542,622円
- インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(豪ドル投資型)
2,871,324,686円

○損益の状況 (2019年5月15日～2020年5月14日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	777,670,867
受取配当金	777,886,457
受取利息	2,690
その他収益金	3,325
支払利息	△ 221,605
(B) 有価証券売買損益	△ 877,274,581
売買益	2,300,423,061
売買損	△3,177,697,642
(C) その他費用等	△ 48,831
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 99,652,545
(E) 前期繰越損益金	4,359,498,161
(F) 追加信託差損益金	116,605,516
(G) 解約差損益金	△2,507,548,794
(H) 計(D+E+F+G)	1,868,902,338
次期繰越損益金(H)	1,868,902,338

- (注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
- (注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

〈お知らせ〉

投資助言会社は、2020年1月、株式会社りそな銀行からりそなアセットマネジメント株式会社へ変更しました。